

資料2

第33回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
2013年3月3日

管理目標ワーキング 活動報告

【活動報告】

- 前回協議会(平成24年9月29日)以降、いずれも生態系モニタリング専門委員会と合同で2回の会議を開催しました。
- 第9回(11月12日)の会議では、「今年度工事の立ち会い者」「次年度以降の整備」「協力体制の仕組み作り」を検討しました。
 - ①工事立ち会い者を決定し、平成25年1月25日に堂本委員・菅間委員に現地指導を頂きました。(参考1参照)
 - ②協議会委員の皆さんによる工事見学会を開催することを決定し、平成25年2月21日に実施しました。(参考2参照)
- 第10回(2月15日)の会議では、第9回に続き「協力体制の仕組み作り」を検討しました。
 - ①河畔林保全・再生については、試験地・一部整備地の管理を試行しながら次年度も検討を継続します。(参考3参照)
 - ②シンジュについては伐採試験を実施します。(参考4参照)
 - ③下池の河畔林については年間スケジュールを立てて管理を試行します。(参考5参照)
 - ④「協力体制」については企業協力や助成金活用など、継続的な活動資金確保に向けた検討を行うための組織の立ち上げの必要性について、広報WGとも連携して検討していく予定です。(参考6参照)
 - ⑤上池の整備は基本方針(案)を作成しました。(資料5参照)

【合同会議の開催】 上尾市文化センター

第9回 平成24年11月12日 9:30~11:30

第10回 平成25年2月15日 9:30~11:30

会議



参考

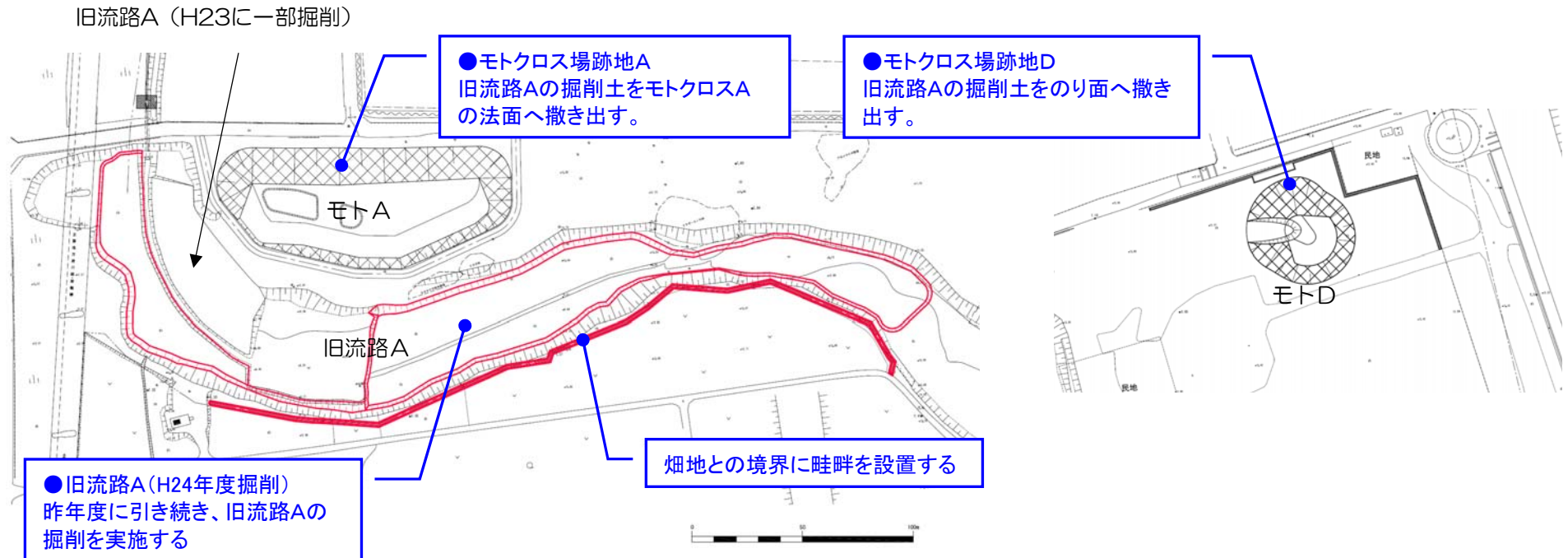
【目次】

1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況	4
2. 工事見学会の実施状況	12
3. 河畔林の保全・再生・管理に関する検討状況	14
4. シンジュの伐採試験予定	15
5. 下池河畔林の管理に関するスケジュール(案)	16
6. 管理体制の検討イメージ	17

参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

平成24年度の 工事内容

- 平成24年度は旧流路Aの掘削を実施しています。
- 旧流路Aの掘削土は、当初の計画に従ってモトクロスAとDへ土を撒き出します。



■平成24年度工事内容に関する協議内容

【第8回管理目標ワーキング】

- 旧流路Aの掘削は協議会の決定事項であることから掘削を行う。
- 旧流路Aの掘削土は長期間放置すると埋土種子の活性が低下する可能性があるため、すぐに撒くようにした方が良い。
→当初の計画に従ってモトクロスAとDへ土を撒き出し、余った分は注意して仮置きしたい。
- モトクロスAとDは掘削した後の状況を見つつ、凹凸の付け方や、産廃の対応、土を撒き出す場所の勾配など議論すれば良い。

【第32回自然再生協議会】

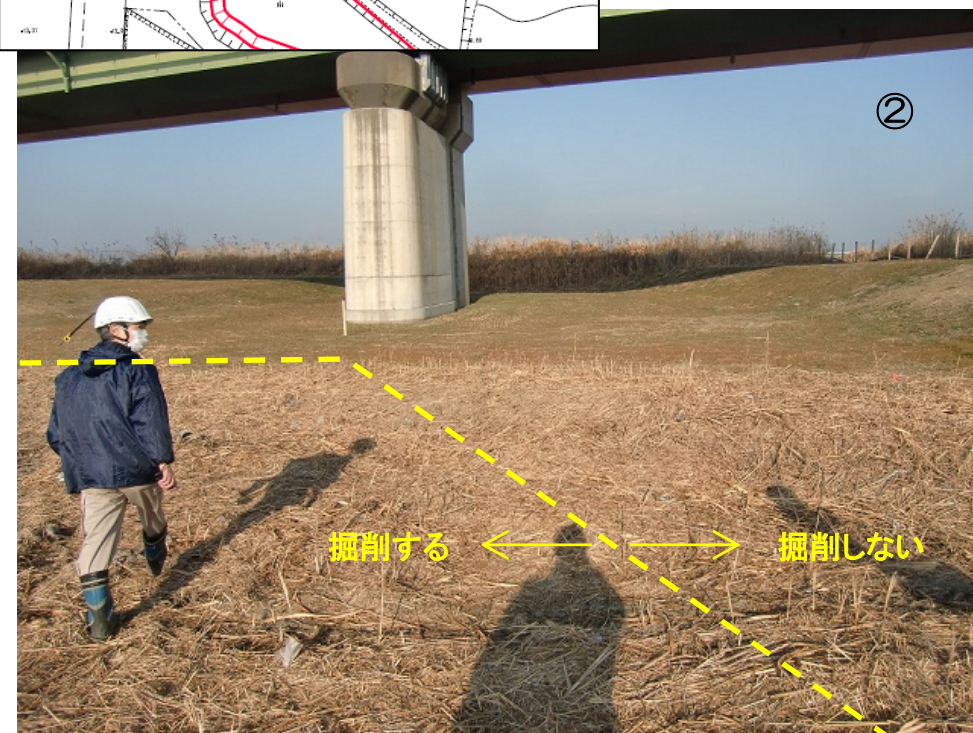
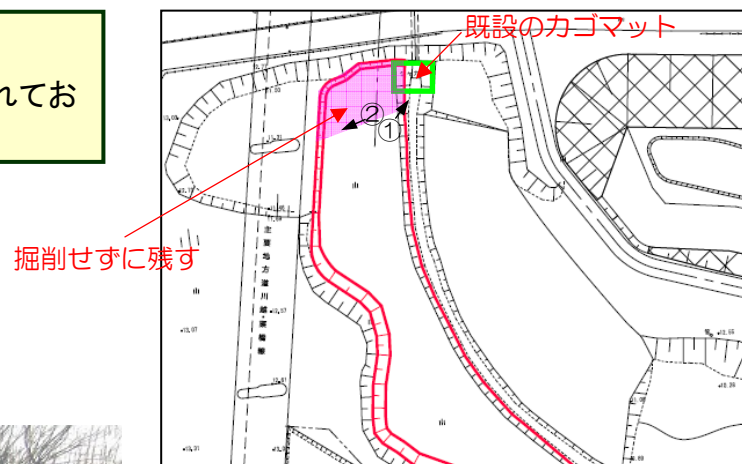
- もともとの河床が出るように掘削するため、施工業者を技術面できちんと教育して工事を実施して欲しい。

参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

- 平成25年1月25日に堂本委員と菅間委員の立ち合いのもと、旧流路Aの工事現場の確認を行い、掘削方法等に関するご意見を頂きました。

確認結果・意見(1): 導水管吐口のかごマットについて

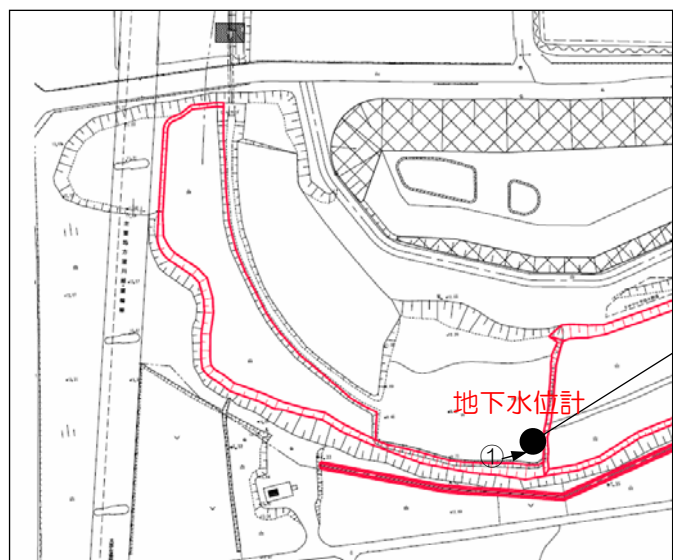
- 荒川本川からの洪水の流入口付近にはかごマットが設置されており、掘削ができないため、一部の範囲は掘削せずに残す。



参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

確認結果・意見(2):旧流路内の水位計の扱いについて

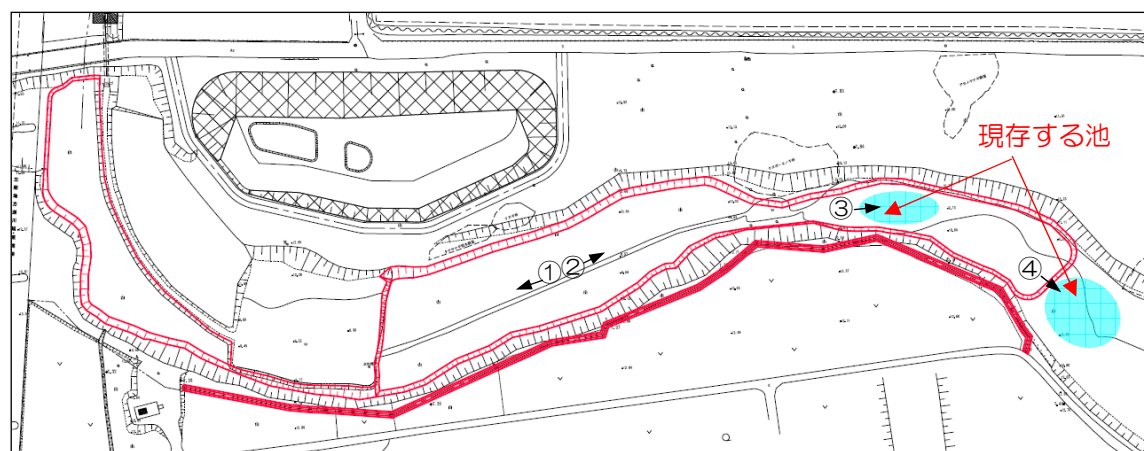
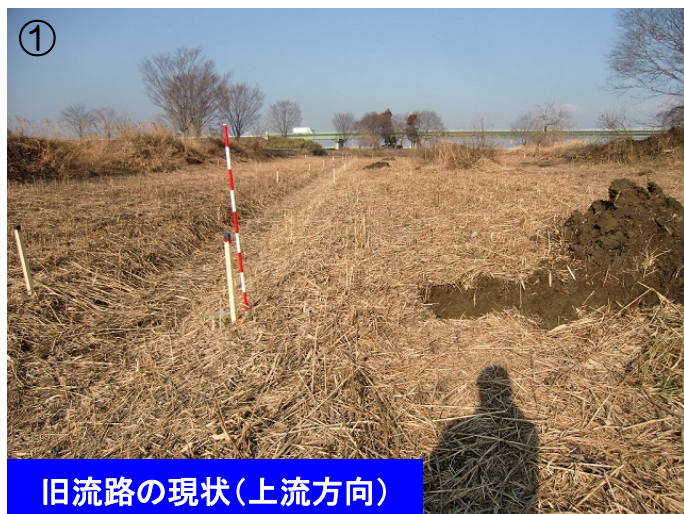
●旧流路内には試験施工時の水位計が設置されており、今後も旧流路の地下水位変動を継続してモニタリングするため、水位計は存置する。



参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

確認結果・意見(3):旧流路Aの河道内の掘削について

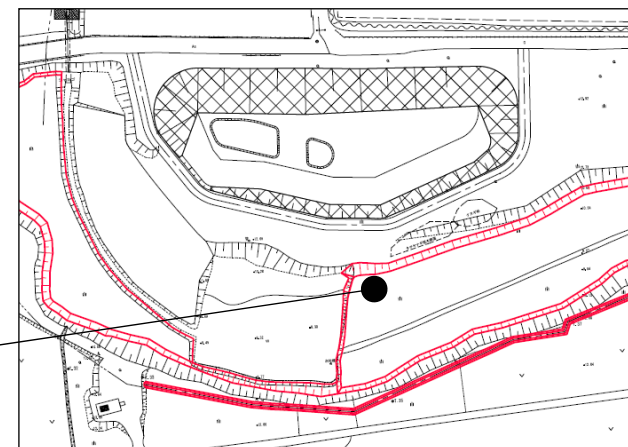
- 旧流路Aの掘削範囲内の樹木は伐採する。
- 現存する池付近の掘削は、アカガエルの生息に配慮して水を枯らす事の無いように水替えをせずに施工する。



参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

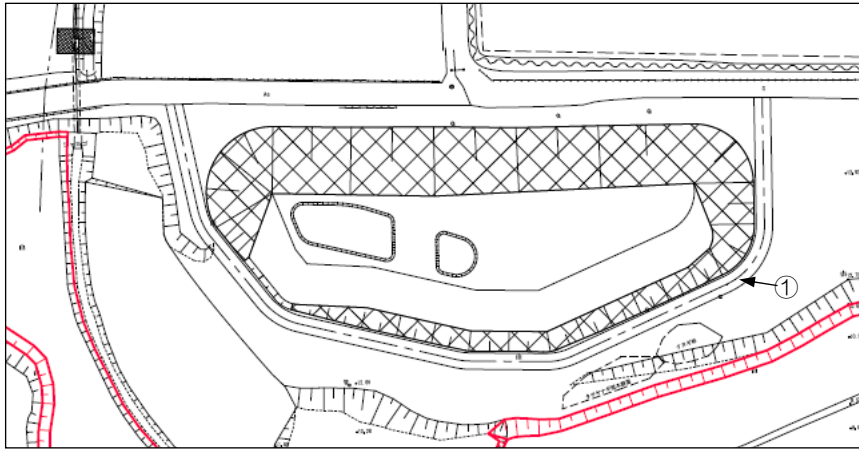
確認結果・意見(4):掘削土の撒き出しについて

- 旧流路Aの試掘をした結果、旧河床堆積物(砂)の上の現河床堆積物(粘土質シルト)は、根の混入が多い上層部と、根の混入の少ない下層部が確認された。
- 現河床堆積物の掘削土は堆積年代により埋土種子の種類や寿命が異なる可能性があるため、上層部と下層部に分けて撒き出しを行う。
- 撒き出し箇所のモトクロスAは、既往の整備土壌条件および今年度の植物生育の影響を判断するため、表土をはぐ箇所と表土をはがさない箇所に分ける。
- 勾配の緩い範囲に掘削土を撒き出し、バックホウで軽くたたいて法崩れを抑えつつ凹凸を付ける。
- 昨年度に撒き出しを実施できなかったモトクロスDを優先して撒き出しをする。
- 表土などの余った土を使ってモトクロスDの半島の盛土を行う。

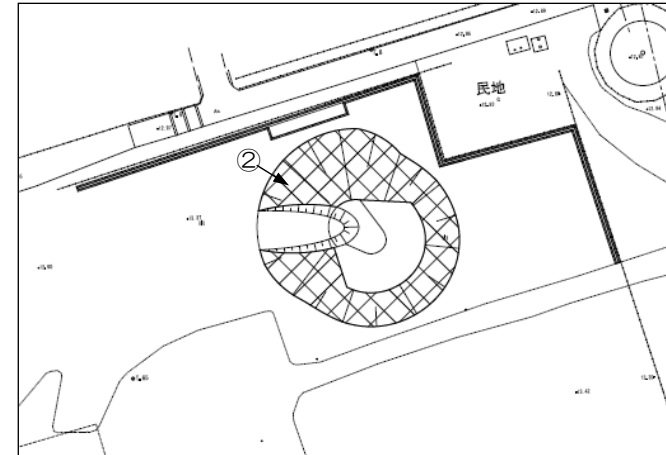


参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

モトクロス場跡地A



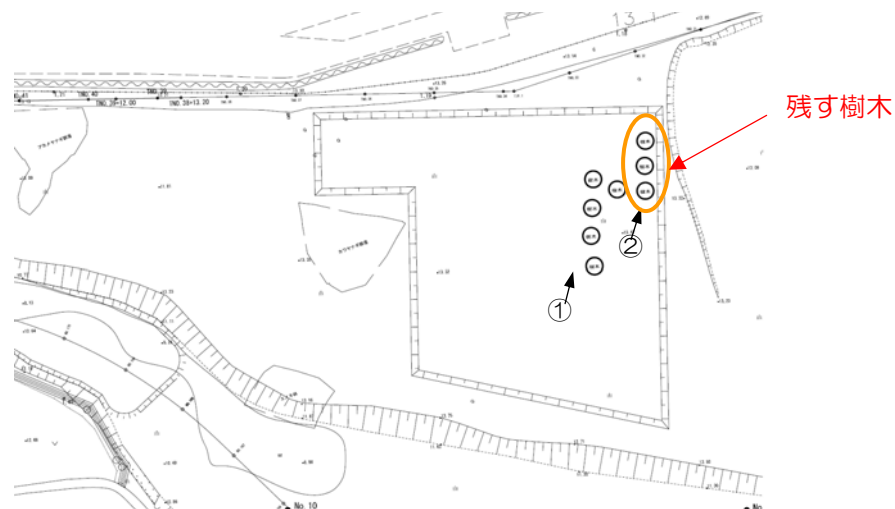
モトクロス場跡地D



参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

確認結果・意見(5):掘削土の仮置きヤードについて

- 仮置きヤード範囲の樹木は一部のムクノキ、クヌギを除いて伐採する。



伐採する樹木



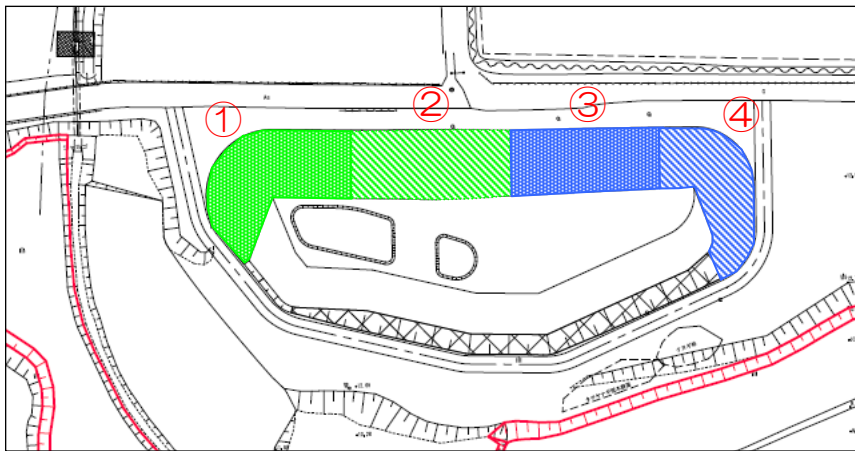
残す樹木

参考1. 平成24年度の工事と委員立ち会いの実施状況

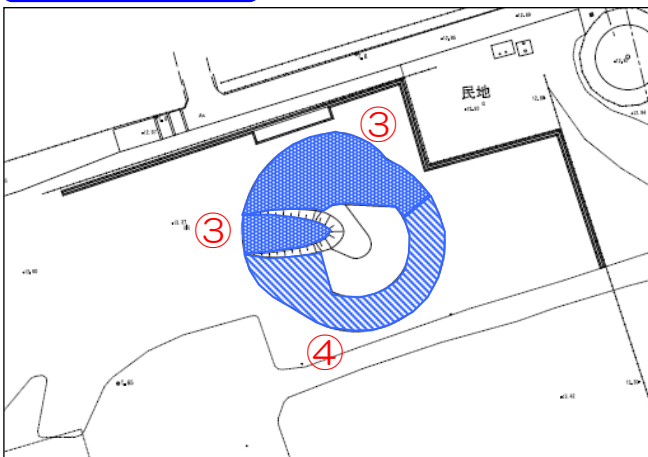
- 今後は委員の現地立ち合い結果を受けた旧流路Aの掘削工事の実施及び、旧流路Aの掘削土をモトA、Dへ撒き出しする。
- 掘削土の撒き出しは、エリア別に撒き出し方法を分けて実施する。撒き出し方法を以下に示す。

旧流路A掘削土の撒き出し方法

モトクロスA



モトクロスD



【凡例】撒き出し方法の分類

分類	撒き出しに使用する土		撒き出し前の表土剥ぎ	
	上層	下層	あり	なし
①	●		●	
②		●	●	
③	●			●
④		●		●

- ・現河床堆積物の掘削土は、堆積年代により埋土種子の種類や寿命が異なる可能性があるため、上層部と下層部で撒き出し範囲を分ける。
- ・撒き出し箇所は、既往の整備土壌条件および今年度の植物生育の影響を判断するため、表土をはぐ箇所と表土をはがさない箇所に分ける。

参考2. 工事見学会の実施状況

- 平成25年2月21日に協議会委員の皆さんによる工事見学会を実施しました。
- 工事見学会では、モトクロス場跡地Dの撒き出しの様子、モトクロス場跡地Aの撒き出しの前の剥ぎ取りの工事の様子、旧流路の掘削の様子、掘削土の仮置き場の様子を見学しました。

確認結果・意見：旧流路の掘削場所

- 旧流路の掘削場所に、川が流れていたときの木杭の跡が確認されました。



確認結果・意見：モトDの撒き出し

- 撒き出し状況を確認し、締め固めは、ブルドーザーで1回走行する程度としました。



H25.2.28の状況



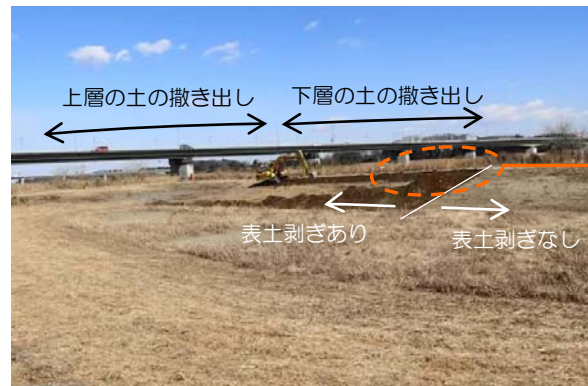
確認結果・意見：旧流路の池

- 旧流路の掘削予定場所の池の状況について確認しました。



確認結果・意見：モトAの撒き出し

- モトAの撒き出しでは、表土を剥ぎとりと撒き出しの予定を確認しました。



H25.2.28の状況

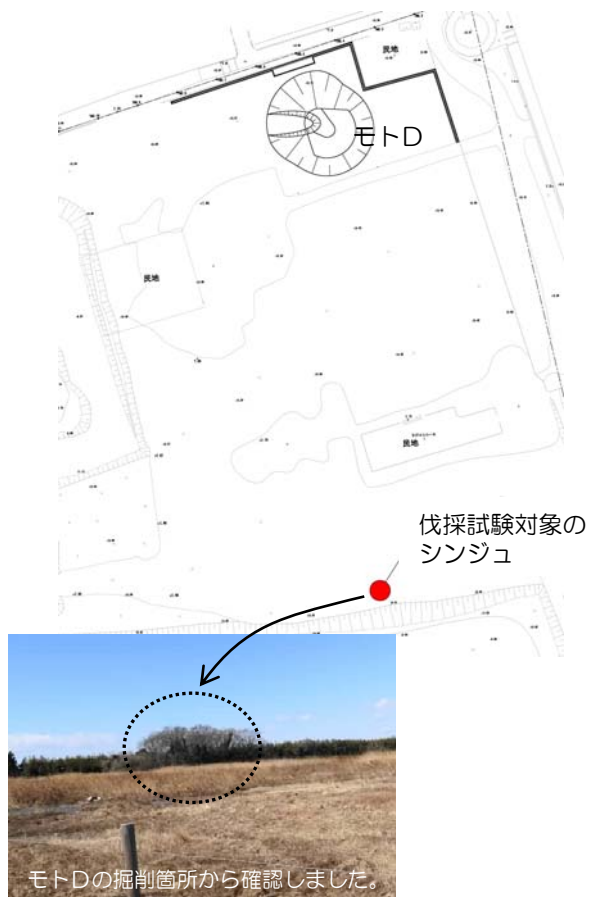


参考2. 工事見学会の実施状況

●モトクロス場跡地Dの見学時には、伐採試験の対象とするシンジュについて現地確認を行いました。

確認結果・意見：シンジュ伐採試験

●旧流路の横にあるシンジュの伐採試験を行うことを確認しました。



H25.2.28の状況



黄色テープ：伐採試験対象のシンジュ

赤色テープ：伐採高さの目安（代表として数本）

伐採対象のシンジュに目印を付けました。



*シンジュ以外の樹木も混じっていますが、大半はシンジュです。

参考3. 河畔林の保全・再生・管理に関する検討状況

中池河畔林

ワーキング の意見

- ・中池河畔林については整備の必要はないが、人が集まる場所であるため、自然再生地の対象地区であることを周知し、ゴミ投棄の防止や適正な利用を促す必要がある。

検討事項

- ・自然再生地であることの周知方法、利用に際しての注意事項

下池河畔林

ワーキング の意見

- ・河畔林整備については、維持管理の協力体制の構築と同時に検討を行う必要があるが、**自然再生のあるべき姿を先に検討し、それ実現するために必要な維持管理の検討と順に実施**することも考えられる。
- ・モニタリング結果で分かったことを踏まえて、次の整備に活かす必要がある。
- ・自然遷移の時間スケールと、管理する人間の時間スケールをどのように捉えて対応していくかを考える必要がある。外来種については放置すればいずれ遷移して衰退していくことが期待できるが、刈り取りをすると逆に生育場を提供することになりかねない。
- ・現在の整備地では、**オオバタクサよりもむしろ再繁茂し始めたシンジュが問題**である。シンジュは放置しておくとし生育範囲を拡大していくことが予想される。
- ・ハンノキを再生するには、水田跡のような湿地を形成することが効果的である。そのような場所を選んで、水が貯まりやすい施工を考えると良い。冠水・冠出を繰り返す場所だとハンノキよりもヤナギ類になってしまう。
- ・大がかりな施工は難しいので、**ハンノキにこだわらずクヌギ・エノキなどを含めた河畔林の再生を考えていくべき**ではないか。
- ・ハンノキやクヌギ・エノキを増やしていくことよりも、**シンジュやタケ類などの問題種が拡大していかないような管理に力を入れた方が良い**のではないかと。
- ・**タケ類については拡大しないよう人為的にコントロールが可能**と考えられる。
- ・**シンジュについては、若い個体は根から抜くようにする。大木については根からの除去は困難なので、まず伐採し、切り株から芽が成長しないように「シート」をかぶせて日光が当たらないようにする。**

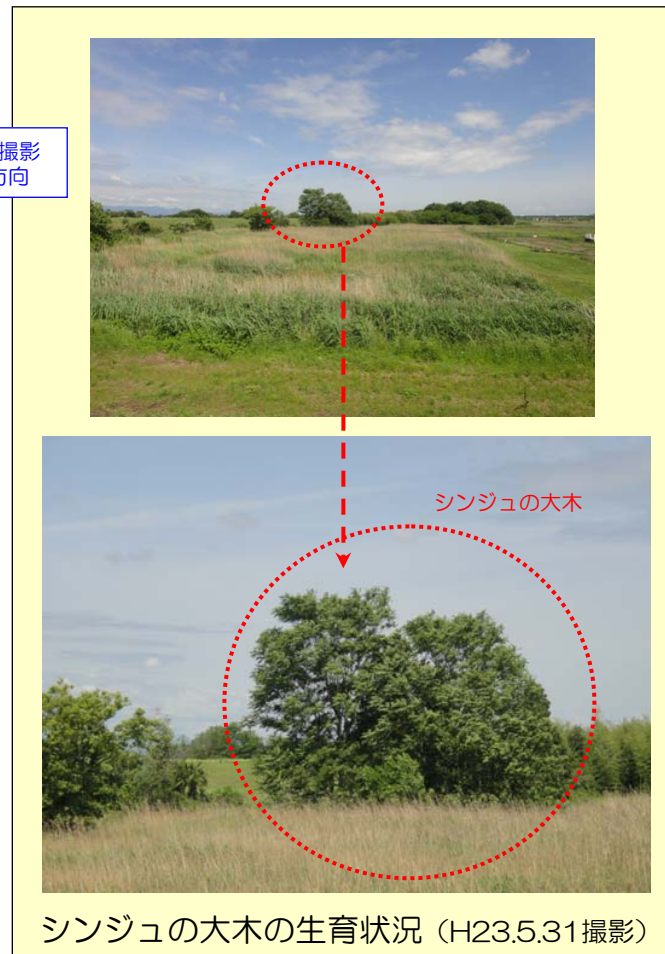
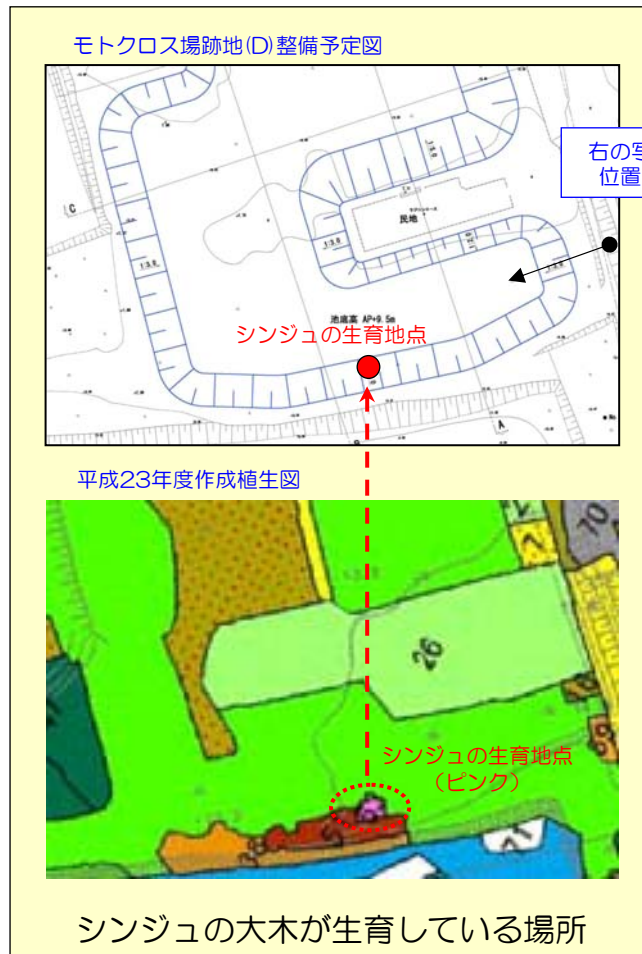
検討事項

- ・自然再生のあるべき姿
- ・維持管理内容と維持管理体制
- ・外来種の駆除・コントロール方法

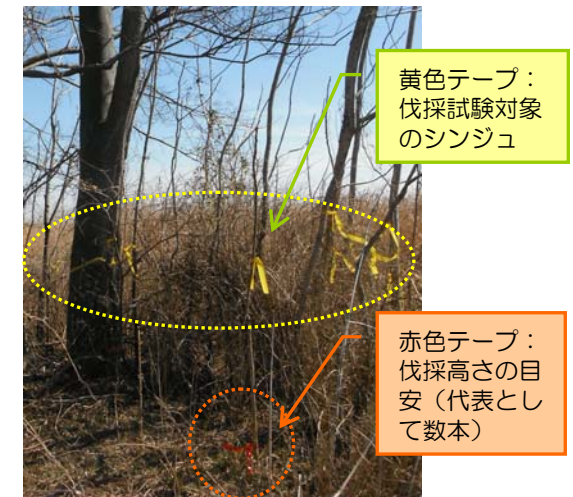
参考4. シンジュの伐採試験予定

【シンジュの伐採試験予定】

- ・上池のモトクロス場跡地(D)の整備予定範囲周縁に現存するシンジュの大木を今年度中に伐採する。
- ・伐採後の切り株にシートをかぶせる。



H25.2.28の状況



伐採対象のシンジュに目印を付けました。

伐採予定のシンジュの生育状況

参考5. 下池河畔林の管理に関するスケジュール(案)

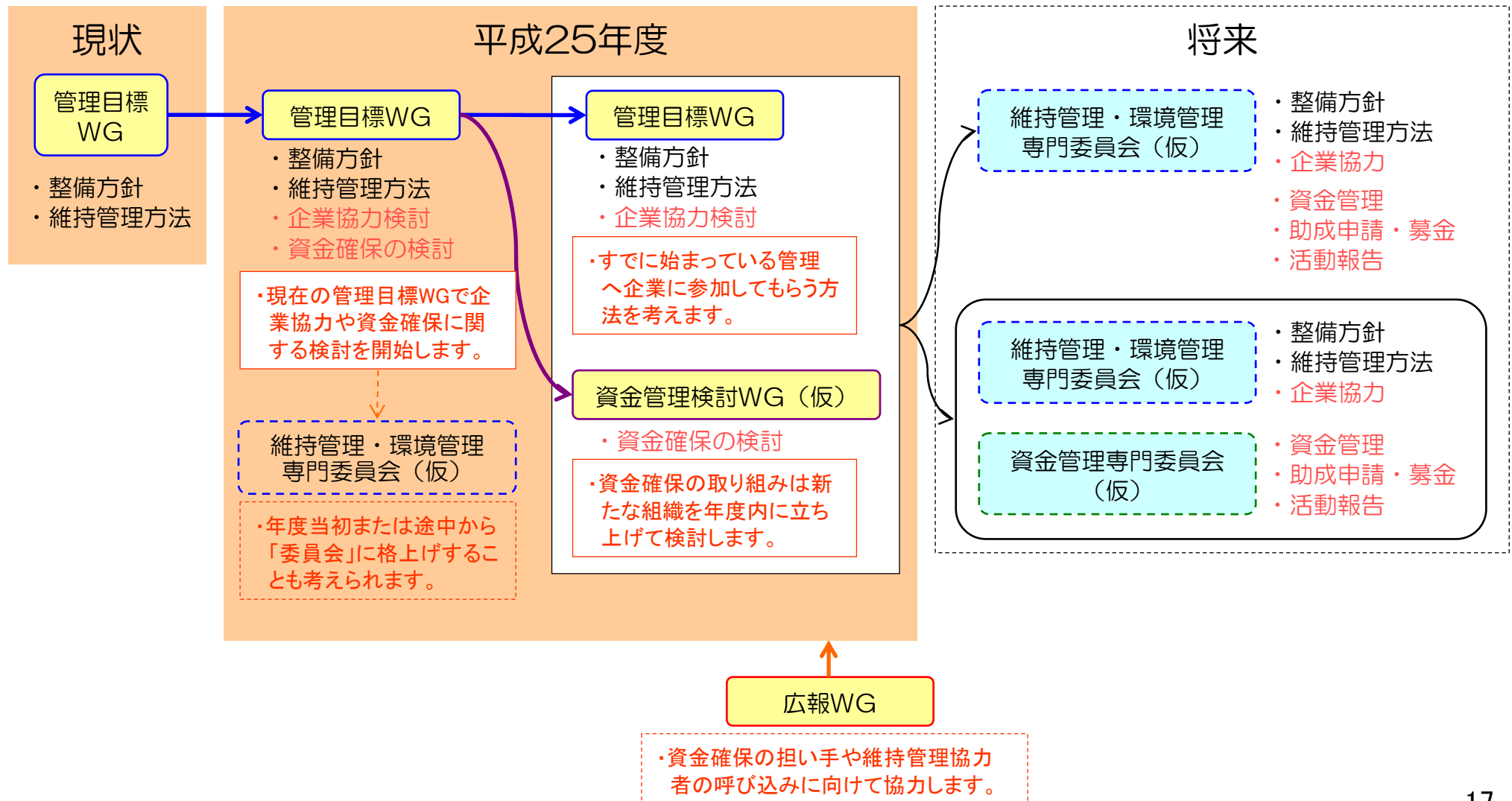
【下池河畔林の管理に関するスケジュール(案)】

場所	管理内容	実施理由	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	設定理由
移植地	【外来種駆除】 シンジュ オオブタクサ 等	・移植地は外来種が繁茂しやすい状態となっている。 ・元々生育していたシンジュが、再繁茂しつつある。 ・一年草のオオブタクサ、多年草のセイタカアワダチソウが繁茂しやすい状態となっている。			●	状況確認	必要に応じ再駆除								・H24年度は8月と10月（イベント）に駆除した。 ・一年草のオオブタクサは8月の駆除により、その後の再繁茂は無かった。 ・木本のシンジュは幼木が再成長しつつある。 ⇒シンジュ、オオブタクサとも人力で除去しやすい大きさの6月に駆除する。その後は状況に応じ再駆除する。
	ハンノキの移植	・広く残っている未移植の範囲に移植する。 ・試験地から間引いて移植木とする。									●				・1月以降は希少鳥類の繁殖への影響を避けるため作業はしない。
試験地②	【つる性植物の駆除】 ヤブガラシ等	・ハンノキに絡みついて倒伏を引き起こしている。			状況確認	●									・H24年度は12月に駆除した。 ・ヤブガラシは多年草であるため再繁茂が予想される。 ⇒ある程度成長し駆除効果が大きい一方で、ハンノキにはまだ影響を及ぼさないと想定される7月に駆除する。（6月の移植地作業時に状況を確認する）
	移植株の搬出	・密度効果で枯死体が出ているため、有効活用する。									●				
試験地③	移植株の搬出	・密度効果で枯死体が出ているため、有効活用する。									●				



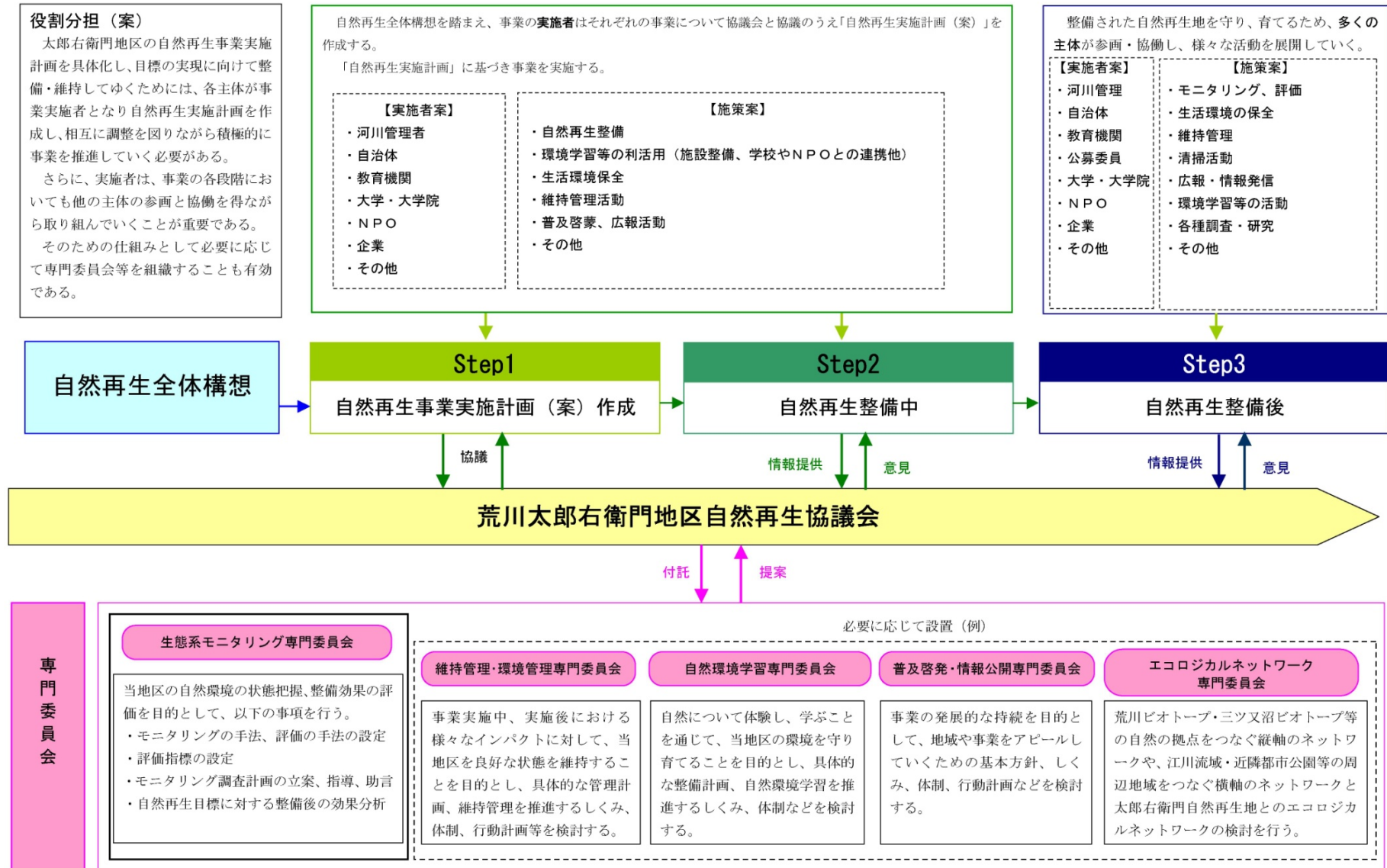
参考6. 管理体制の検討について

- 通常の河川管理でできない、自然再生の維持管理、広報、イベント等を住民、NPO、自治体、民間企業等が協力して実施する組織づくりについてのワーキングの設立と検討の流れ(案)



参考6. 管理体制の検討について

参考: 全体構想書の役割分担のイメージ



太郎右衛門地区自然再生事業の役割分担のイメージ